

溪仁会グループの“いま”をお届けする、保健・医療・介護・福祉のフリーペーパー

サラネット

2023

冬



特集

チーム医療の一員として――

病院の現場で求められる介護福祉士

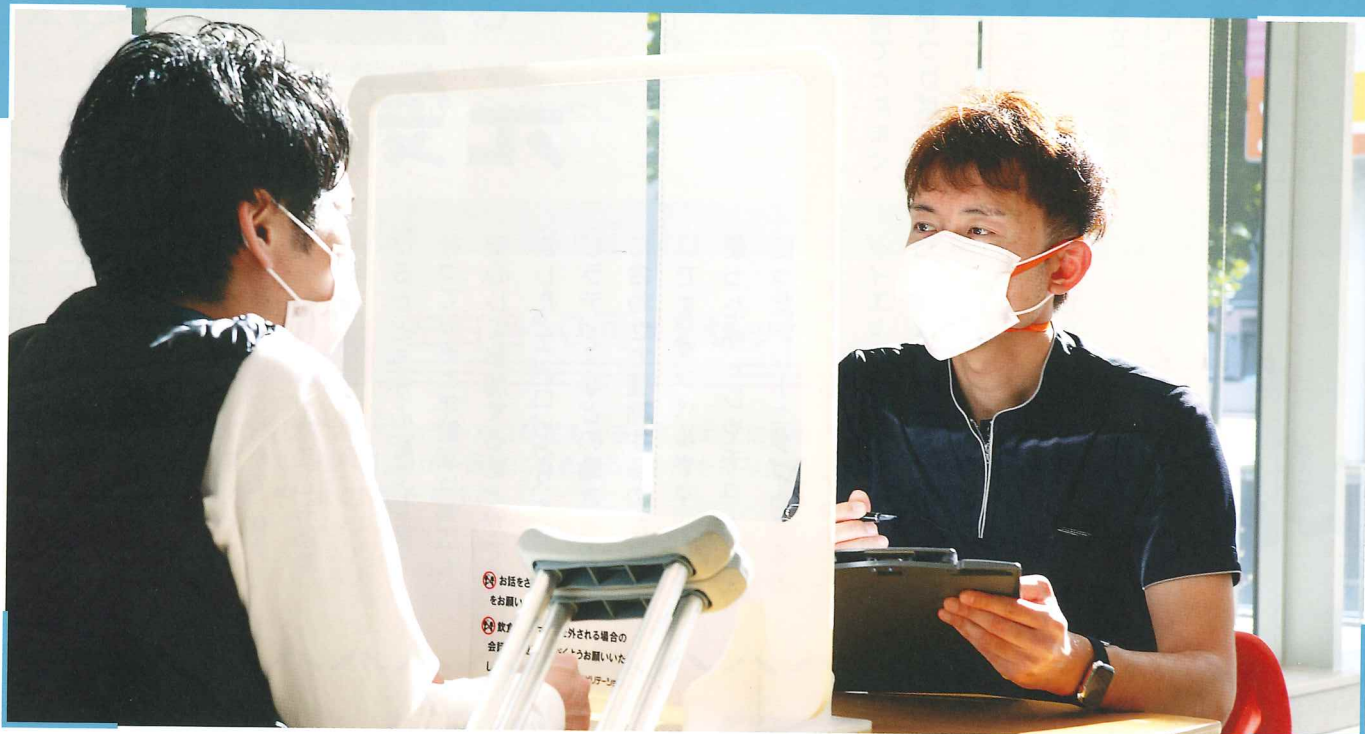
「ずっと。」
人と社会を支える

ik 溪仁会グループ

キラビト

浜仁会グループの現場でキラリと輝く職員、それが「キラビト」です。
職場を支える個性豊かなバイタリティを持つ「キラビト」たちをご紹介します。

札幌浜仁会リハビリテーション病院
リハビリテーション部
作業療法士
退院支援セラピスト
なか やま だい き
中山 大樹



目指すのは、患者さんのよりよい暮らし。
退院支援セラピストは、病院と日常生活の橋渡し役。

私は現在、作業療法士として患者さんの退院後の生活復帰をサポートする「つながるリハプロジェクト」の退院支援セラピストとして訪問リハビリテーションにあたっています。

退院支援セラピストは、患者さんの入院中から多職種カンファレンスに参加して治療動向を把握します。予測されるリハビリテーションの課題や生活上の問題点をモニタリングしながら、退院後に訪問リハビリテーションにより患者さんと関わることで、スムーズな在宅復帰を支援する役割です。またコロナ禍で外泊や家屋調査が難しくなっているなか、退院支援セラピストはご自宅での生活状況を確認することで、病院と患者さんの日常生活を繋げる橋渡し役となっています。そのため、患者さん本人やご家族、病棟の各専門職、地域のケアマネジャーなど、さまざまな方とのコミュニケーションや情報共有も仕事の一部です。

入院中と在宅に移ったときの生活スタイルは大きく変わります。訪問リハビリテーションをおこなうことで、見えてくる課題もたくさんあるので、杓子定規にものごとを決めつけず、患者さん本人とご家族の意思を尊重しながら、生活に合わせた支援にあたるように心がけています。

作業療法士の仕事は機能的な関わりだけではなく、よりよい暮らしを送るための生活指導や環境調整も重要です。今の身体状況でもできることを少しずつ増やし、その人の本来の暮らしに近づけて行くことが自分の役目と考えています。

私は年齢的にもベテランと呼ばれる世代になり、病棟リーダーとしてスタッフをまとめてきた経験があります。後輩には、作業療法士としての基本を教えることはもちろん、患者さんや他職種スタッフへの伝え方、コミュニケーション方法など、目には見えない大事な部分も教えていく立場になりました。形のないものを教えることはむずかしいですが、患者さんのためにもしっかり役目を果たしたいです。

今後はさらによりよい支援をおこなうために、医療・介護のみならず多方面へ交流を広げ、あらゆる面で患者さんをサポートできるような存在になればたらと思っています。

【退院支援セラピスト】

退院支援セラピストは、札幌浜仁会リハビリテーション病院が実施する「つながるリハプロジェクト」で誕生した支援チームのメンバー。現在は作業療法士2名、理学療法士1名の計3名体制で、院内スタッフやケアマネジャーと連携し、短期間の訪問リハビリテーションで回復期から在宅生活再開期に向けたきめ細かい支援をおこなう。